



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月9日

上場会社名 日本山村硝子株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5210 URL <https://www.yamamura.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 山村 幸治
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 佐貴 正義 TEL 06-4300-6000
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	51,748	10.2	487	△53.4	△1,332	—	△894	—
2022年3月期第3四半期	46,937	7.7	1,045	—	△2,491	—	△2,934	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 553百万円 (—%) 2022年3月期第3四半期 △2,071百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△87.59	—
2022年3月期第3四半期	△287.35	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	91,276	40,761	44.5
2022年3月期	97,366	40,214	41.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 40,594百万円 2022年3月期 39,909百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—		
2023年3月期（予想）				—	—

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

2023年3月期の期末配当予想につきましては、引き続き未定としております。

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	66,000	2.7	△900	—	△3,100	—	△2,000	—	△195.84

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 有
除外 1社 （社名）秦皇島方圓包装玻璃有限公司

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	11,145,249株	2022年3月期	11,145,249株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	933,028株	2022年3月期	932,500株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	10,212,529株	2022年3月期3Q	10,213,139株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

上記の予想に関連する事項は、[添付資料] 3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、経済社会活動の正常化が進む中で個人消費は緩やかに持ち直し、企業の収益も改善傾向となりました。一方で、海外情勢による資源価格の上昇や物価の上昇、国内外における感染症の動向等、下振れ懸念があり、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような中、山村グループでは3ヵ年の中期経営計画の最終年度を迎えました。「人や社会とともに、環境に配慮しながら、安心・安全を提供し、未来に誇りを持って引き継いでいける、成長し続ける企業グループ」という長期ビジョンとしての“ありたい姿”に向けて、中期経営計画では「Change and Challenge with You」というスローガンの下、「環境変化に適応した運営体制の構築」「投資効率の追求と収益体質の確立」「事業の拡大と成長戦略の推進」「社会のニーズに応える製品・サービスの展開」「従業員の能力が最大限発揮される職場環境の構築と次世代の育成」という5つの経営方針を推進し、グループ一体となって業績向上に取り組んでまいりました。しかしながら米国関連会社の創業赤字による損失等により中期経営計画の目標達成が困難となりました。業績改善が喫緊の課題と認識する中、中期経営計画とは別に成長に向けた基盤整備のため事業構造改革計画を策定し、当期より着手しております。

事業セグメント別の経営成績は以下のとおりです。

① ガラスびん関連事業

ガラスびん関連事業では、事業構造改革計画の一環として子会社秦皇島方圓包装玻璃有限公司（Yamamura Glass Qinhuangdao 以下、「YGQ」という。）の全持分を譲渡することを決議し、2022年4月20日付で当該持分譲渡を実行いたしました。当該譲渡により、YGQは第1四半期連結会計期間末において連結範囲から除外となっております。なお、YGQは当社と決算期に3ヵ月の差異があるため、当第3四半期連結累計期間においてはYGQの期首である2022年1月から2022年3月までの3ヵ月間の業績が含まれております。

国内ガラスびん業界の出荷はアルコール飲料等が増加し、前年同期比103.2%となり、当社においてもガラスびんの出荷が増加しました。さらに価格改定や品種構成の変化により販売単価が上昇したこと、また、前連結会計年度末から海外子会社山村インターナショナル・タイランドを連結範囲に含めたこと等により、YGQの持分譲渡による減少はあったものの、セグメント売上高は33,328百万円（前年同期比12.7%増）と増収となりました。セグメント利益は、当社において販売単価の上昇や設備投資の抑制による減価償却費の減少等の良化はありましたが、欧州の政情不安や円安の影響による原燃料・動力価格の高騰に伴う悪化をカバーするには至りませんでした。しかし、前第3四半期連結累計期間に損失の発生していたYGQを連結範囲から除外したこと等の良化により、325百万円（前年同期は58百万円の損失）となりました。

なお、原燃料・動力価格の高騰に対応するため、ガラスびん製品の追加の価格改定について2022年9月に公表し、継続して取り組んでおります。

② プラスチック容器関連事業

プラスチック容器関連事業では、当社の飲料用キャップの出荷は減少しましたが、価格改定等により飲料用キャップの販売単価が上昇したことやディーブグリップボトル（把手とボトルが一体成型された大容量4.0Lペットボトル）の出荷が増加したこと、海外子会社の売上が為替換算の影響で増加したこと等により、セグメント売上高は5,115百万円（前年同期比1.0%増）と増収となりました。セグメント利益は、販売単価の上昇はありましたが、原料価格の高騰等に追い付かず、△243百万円の損失（前年同期は458百万円の利益）となりました。

なお、事業構造改革計画の一環として2022年5月16日の取締役会において連結子会社の山村ウタマ・インドプラスを解散することを決議しております。

③ 物流関連事業

物流関連事業では、2021年9月に2社の株式を取得し連結子会社としたこと等により、セグメント売上高は10,971百万円（前年同期比16.9%増）と増収となりました。セグメント利益は、既存事業における取扱い物量の減少や燃料費の高騰、新規連結子会社ののれんの償却等がありましたが、不採算取引の見直しや前期は子会社取得費用の計上があったこと等により、431百万円（前年同期比1.3%増）と増益となりました。

④ ニューガラス関連事業

ニューガラス関連事業では、中国のロックダウンや世界的な資材調達遅延等による顧客の生産減少等の影響を受け、当社における太陽電池用ガラスや電子部品用ガラスの出荷および国内子会社におけるレーザー用部品やセンサー用部品の出荷が減少し、セグメント売上高は2,332百万円（前年同期比19.9%減）と減収となりました。セグメント利益は、出荷の減少や減価償却費等の費用の増加等により△302百万円の損失（前年同期は102百万円の利益）となりました。

なお、事業構造改革計画の一環として2022年6月14日の取締役会において連結子会社の台湾山村光學股份有限公司を解散することを決議しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は51,748百万円（前年同期比10.2%増）と増収となりました

が、連結営業利益は487百万円（前年同期比53.4%減）と減益となりました。米国の海外関連会社において前期よりは改善したものの創業赤字が継続し、持分法による投資損失は1,398百万円（前年同期は持分法による投資損失3,374百万円）となり、連結経常利益は△1,332百万円の損失（前年同期は△2,491百万円の損失）となりました。2023年3月期および今後の業績動向等を勘案し、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、繰延税金資産を追加計上したことにより法人税等調整額を計上し、親会社株主に帰属する四半期純利益は△894百万円の損失（前年同期は△2,934百万円の損失）となりました。

（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期における通期の業績予想につきましては、2022年8月5日に公表しました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,129	8,761
受取手形、売掛金及び契約資産	17,950	18,934
商品及び製品	6,144	5,778
仕掛品	449	299
原材料及び貯蔵品	2,502	1,811
その他	756	1,012
貸倒引当金	△58	△5
流動資産合計	38,874	36,592
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,168	5,634
機械装置及び運搬具（純額）	12,486	8,202
工具、器具及び備品（純額）	892	703
土地	11,005	11,006
建設仮勘定	186	423
有形固定資産合計	31,738	25,971
無形固定資産		
その他	1,838	678
無形固定資産合計	1,838	678
投資その他の資産		
投資有価証券	2,533	2,609
関係会社株式	19,246	21,448
退職給付に係る資産	960	886
繰延税金資産	511	1,473
その他	1,927	1,880
貸倒引当金	△265	△264
投資その他の資産合計	24,914	28,033
固定資産合計	58,492	54,683
資産合計	97,366	91,276

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,136	8,291
短期借入金	11,318	13,153
未払法人税等	350	251
賞与引当金	639	266
事業整理損失引当金	4,757	—
製品保証引当金	76	—
その他	5,262	4,932
流動負債合計	29,542	26,894
固定負債		
社債	1,000	1,000
長期借入金	20,577	17,561
リース債務	784	513
環境対策引当金	3	3
退職給付に係る負債	2,989	2,995
繰延税金負債	313	57
その他	1,941	1,488
固定負債合計	27,609	23,620
負債合計	57,151	50,514
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,074	14,074
資本剰余金	16,696	16,625
利益剰余金	11,224	10,400
自己株式	△1,565	△1,565
株主資本合計	40,430	39,535
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	767	826
繰延ヘッジ損益	71	71
為替換算調整勘定	△1,305	223
退職給付に係る調整累計額	△55	△62
その他の包括利益累計額合計	△521	1,058
非支配株主持分	305	166
純資産合計	40,214	40,761
負債純資産合計	97,366	91,276

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	46,937	51,748
売上原価	38,140	43,470
売上総利益	8,796	8,277
販売費及び一般管理費	7,751	7,790
営業利益	1,045	487
営業外収益		
受取利息	13	28
受取配当金	58	82
その他	507	451
営業外収益合計	579	562
営業外費用		
支払利息	235	200
持分法による投資損失	3,374	1,398
租税公課	69	71
その他	437	711
営業外費用合計	4,117	2,382
経常損失(△)	△2,491	△1,332
特別利益		
固定資産売却益	8	51
投資有価証券売却益	2	—
事業整理損失引当金戻入額	—	114
特別利益合計	11	166
特別損失		
固定資産売却損	—	2
固定資産廃棄損	24	4
投資有価証券売却損	6	—
事業整理損	—	537
支払補償金	—	7
特別損失合計	31	552
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,511	△1,718
法人税、住民税及び事業税	567	328
法人税等調整額	△93	△1,003
法人税等合計	474	△674
四半期純損失(△)	△2,986	△1,043
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△51	△149
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,934	△894

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純損失(△)	△2,986	△1,043
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△235	57
繰延ヘッジ損益	△23	0
為替換算調整勘定	521	△222
退職給付に係る調整額	12	△17
持分法適用会社に対する持分相当額	640	1,778
その他の包括利益合計	915	1,596
四半期包括利益	△2,071	553
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,044	685
非支配株主に係る四半期包括利益	△26	△132

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	ガラス びん関 連事業	プラスチ ック容 器関 連事業	物流関 連事業	ニューガ ラス関 連事業	計		
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	29,576	5,064	8,569	2,913	46,123	—	46,123
その他の収益	—	—	813	—	813	—	813
外部顧客への売上高	29,576	5,064	9,383	2,913	46,937	—	46,937
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	489	5,811	5	6,306	△6,306	—
計	29,576	5,553	15,194	2,919	53,244	△6,306	46,937
セグメント利益 又は損失(△)	△58	458	426	102	928	116	1,045

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額116百万円には、セグメント間取引消去等84百万円、その他の調整32百万円が含まれております。その他の調整は、報告セグメントに帰属しない全社費用と報告セグメントに計上されている営業外損益調整等です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 第2四半期連結会計期間より、中山運送株式会社(物流関連事業)およびマルイシ運輸株式会社(物流関連事業)は、当社の連結子会社である山村ロジスティクス株式会社が全株式を取得したため、連結の範囲に含めております。なお、みなし取得日を2021年9月30日としているため、第2四半期連結会計期間は貸借対照表のみを連結し、当第3四半期連結会計期間より損益計算書を連結しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	ガラス びん関 連事業	プラスチ ック容 器関 連事業	物流関 連事業	ニューガ ラス関 連事業	計		
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	33,328	5,115	10,110	2,332	50,886	—	50,886
その他の収益	—	—	861	—	861	—	861
外部顧客への売上高	33,328	5,115	10,971	2,332	51,748	—	51,748
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	523	6,078	6	6,609	△6,609	—
計	33,328	5,639	17,050	2,339	58,357	△6,609	51,748
セグメント利益 又は損失(△)	325	△243	431	△302	212	275	487

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額275百万円には、セグメント間取引消去等98百万円、その他の調整176百万円が含まれております。その他の調整は、報告セグメントに帰属しない全社費用と報告セグメントに計上されている営業外損益調整等です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、秦皇島方圓包装玻璃有限公司の全持分を売却したため、みなし売却日を第1四半期連結会計期間末日とし、連結の範囲から除外しております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「ガラスびん関連事業」において7,010百万円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。